

# Tamaki Town

## 「玉城町地域ふくし力向上計画」への思い ～たまき人が共に育むふくしのまちの実現へ向けて～

昨今の生活形態の変化、少子高齢社会、また地域コミュニティの薄れはさまざまな形で住民生活に不安を生みだしています。

そこで、私たち玉城町社会福祉協議会は、「みんなが安心してしあわせに暮らせるまち」にするにはどうすればよいか」と地域福祉活動を推進するなかで検討を重ね、町民自らの課題は自らで解決していこうと、町のボランティア、各種団体や企業など多方面から人々が集まり平成20年度に「元気ですたまき委員会」を結成しました。



委員会の基本目標は、「地域のコミュニケーション力アップ」と「福祉共育のできるまち」を掲げ、平成24年から3カ年『玉城町地域ふくし力向上計画』として実践してきました。具体的には、あいさつを通じて地域の人たちのつながりを強めたり、支えあう気持ちを共に育んだり、支えあう輪を広げたりする活動です。

そして、平成27年度、2期目となる5カ年計画を始動させました。引き続き地域の支え合いの大切さを呼びかけ、意識づけから行動へとつながる具体的な計画として、みなさんと共に取り組んでいきたいと考えています。

本計画では、新たに“たまき<sup>ひと</sup>”が誕生しました。玉城町に在住、在勤する人、町に想いを寄せる人、すべてを「たまき人」と称し、さらに福祉への理解と関心を深め、連帯感をもつことで、福祉力や地域力が強くなるそんな社会を目指そうとしています。



※写真はペットボトルのキャップで作るたまき人パネル（元気ですたまきまつりで）

編集・企画：元気ですたまき委員会

# 第2期 玉城町 地域ふくし力向上計画

(平成27年度～平成31年度)

「元気です!たまき」と笑顔で語り続けられる  
まちづくりを目指して



基本目標1

## 地域のコミュニケーションアップ

地域のつながりが希薄になりつつある中で、「たまき人」相互のつながりを創造する。



あいさつ強化デーの様子

推進項目	実施計画	年次				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
<b>(1) あいさつのできるまち玉城町</b> いつでもどこでもだれとでもあいさつが行える取り組みとして意識づける。	1. 幼い頃よりあいさつの大切さを伝え、玉城町への愛着心を育む。	小学生を対象に活動内容を検討する。講師の調整を行う。	教育委員会・小学校との調整を行い、町内講師による「たまき大好き講座(仮称)」を実施する。	実施 見直し	→	
	2. 福祉団体・各種団体の活動の中にあいさつ運動を取り入れてもらうよう啓発する。	町内団体の既存活動の調査、把握、整理を行う。	各団体に「あいさつ運動」への取り組みを協力依頼する。活動の調整・PRを行う。	見直し・調整 活動PR	→	
	3. 住民交流の機会の少ない「たまき人」へのアプローチを行う。	家から出る機会の少ない、高齢者などへのコミュニケーションのひとつとしてあいさつの機会を設ける。老人クラブなどに地域の状況を聞き取り調査する。	アプローチの仕方を検討し、「老人クラブ」などに実施の依頼をする。	実施 見直し	→	
	4. 「たまき人」相互が意欲的にあいさつできるよう意識の向上を図る。	「あいさつ強化(共加)デー」を継続する。内容の見直しを行う。	実施 見直し	→		
<b>(2) ふれあいから支え合うまち玉城町</b> 「たまき人」相互のつながりを深める。	1. つながりを深める有効な啓発方法、情報提供方法を確立する。	有効な周知方法の検討を行う。必要な情報提供の方法を考案する。	見直し	確立	継続	→
	2. 福祉団体・各種団体の行う活動が地域の中で活かされるよう、連携を図る。	町内団体の既存活動の調査、把握、整理を行う。「健康しあわせ委員会」との連携事業を実施する。	各団体の連携を調整し、活動の拡充を図る。	実施 見直し	→	
<b>(3) 交流の場をつくるまち玉城町</b> コミュニティの場をつくる。	1. 閉じこもりがちな高齢者の地域交流の場をつくる。	小学校と民生委員などが協力し、「楽笑会」を4校区で開催する。	実施 見直し	→		
	2. 地域で顔の見える関係を増やし、誰でも気軽に集まれる場(サロン)をつくる。	地区を絞り、リーダー養成を含めたサロン活動の体験の機会を持つ(3か所)。既存の集団活動を確立し、サロン活動へ発展させていく。	自治区と地域の調整を行い、サロン活動につなげていく。地区を絞り、リーダー養成を含めた体験の機会をもつ。	→		

基本目標2

## ふくし共育のできるまち

「たまき人」の支え合う気持ちを育み、輪を広げていく。



地域福祉座談会の様子

推進項目	実施計画	年次				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
<b>(1) 困ったとき気軽に相談できるまち玉城町</b> 「たまき人」が抱える課題を共有し、解決に向けていく。	1. 「たまき人」の抱える課題や本音に気づき、解決に向けて行動する。	民生委員・居宅介護支援事業所などから地域の困りごとを聞き取る。	福祉課題を抱える人・家族の支援方法について勉強会を行う。	「フリースペース(自由に集まれる場所)」などを設置し、具体的な支援方法の検討を行い、実践する。	困りごとの聞き取り継続 課題対応の検討・実施	→
	2. 出会いの少ない若者へ交流の場をつくる。	町イベントへ参加しながら、継続した交流の場を検討する。	交流の場づくりを行う「おせっkaiたまき」の活動を推進する。	実施 見直し	→	
<b>(2) 交流の場があるまち玉城町</b> 孤立しがちな「たまき人」に外出する機会をつくる。	1. 孤立しがちな「たまき人」が気軽に集まれる場として「フリースペース」を設置する。	委員会において、「フリースペース」をどんな場所にするのかイメージを話し合い、まとめる。	実施体制を調整し、モデル的に実施する。	実施 見直し	→	
	2. 「たまき人」が抱える課題を地域で共有する。	中学校の協力を得て、地域福祉座談会を開催する。地域の課題を知り、解決する方法を学ぶ、「ふくしを支える勉強会」を開催する。	実施 見直し	→		
<b>(3) 共育しあうまち玉城町</b> さまざまな人の参画を得て、ふくし共育活動の継続的な仕組みをつくる。	1. 「たまき人」の力を引き出す。	「たまき人」自身が自助の力(自分でできること)を知る機会となる講座の開催を検討する。	講座の開催	「たまき人」が自分自身のできることを発信していく。(活動の模索・実施)	実施・見直し	→
	2. 「たまき人」のボランティア活動及び地域貢献の機会を拡げる。	登録ボランティア団体の協力を得て、「はじめましてボランティア講座」の開催を検討する。	「はじめましてボランティア講座」の開催を行う。企業や学生(小～高)のボランティア参加の促しを検討する。	「はじめましてボランティア講座」の開催を継続する。企業や学生(小～高)のボランティア参加を実施する。	企業や学生(小～高)のボランティア参加を実施し、ボランティア教育(共育)の推進を図る。	→
	3. 地域の状況を把握した元民生委員などが福祉協力員として登録し、地域の見守り体制を整えていく。	福祉協力員の役割について話し合い、まとめる。	民生委員からの新規登録の声かけを行う。福祉協力員の要綱を見直す。	福祉協力員の募集を行い、民生委員などとの協力調整を図る。	募集呼び掛けの継続を行う。民生委員との連携調整を図る。	→
	4. 地域で顔を見える関係を増やし、誰でも気軽に集まれる場(サロン)をつくる。	地区を絞り、リーダー養成を含めたサロン活動の体験の機会を持つ(3か所)。既存の集団活動を確立し、サロン活動へ発展させていく。	自治区と地域の調整を行い、サロン活動につなげていく。地区を絞り、リーダー養成を含めた体験の機会をもつ。	→		

「たまき人」が共に支え合う福祉の心を培い、共に笑顔あふれる心豊かなまちづくりを実現する。